

科目名	救急救命処置概論Ⅲ			授業の種類	講義	講師名	
授業回数	8回	時間数	15時間 (1単位)	配当学年・時期	救急救命士科2年	必修・選択	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>気管挿管の目的・適応を理解し、手技が確実に出来る。            薬剤投与や輸液を目的とした静脈路の確保。            薬剤投与の目的、適応が理解でき、手技が確実に出来る。            血糖想定、ブドウ糖溶液投与の適応、適切な判断能力を身につける。            ショックの病態の鑑別、心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の適応、適切な判断能力を身につける。</p>							
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>導入講義後、手技のデモンストレーション。            各班で血糖測定、心肺機能停止前の輸液、気管挿管、薬剤投与の手技練習。            各処置を含めての想定訓練</p>							
〔講師の実務経験〕							
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>気管挿管の目的・適応を理解し、手技が確実に出来る。            薬剤投与や輸液を目的とした静脈路の確保。            薬剤投与の目的、適応が理解でき、手技が確実に出来る。            血糖想定、ブドウ糖溶液投与の適応、適切な判断能力を身につける。            ショックの病態の鑑別、心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液の適応、適切な判断能力を身につける。</p>							
回数	講義内容						
1	薬剤(アドレナリン)について復習。薬理作用について						
2	薬剤投与手技・復習						
3	薬剤投与手技。実習班での手技練習。						
4	上気道～下気道解剖の復習。気管挿管、気管内吸引導入講義						
5	気管挿管手技						
6	気管挿管手技。実習班での手技練習						
7	気管内吸引手技。実習班での手技練習						
8	気管挿管、薬剤投与想定訓練						
	定期筆記試験						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
	書籍名		著者名		出版社		
	第10版救急救命士標準テキスト				へるす出版		
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】							
終講時試験。履修規定に準じる。							